

大学院教育における「環境」科目 -北海道大学のシラバスを用いた分析事例-

北海道大学大学院 環境科学院
環境起学専攻 実践環境科学コース
三井 翔太

「環境」に関する教育・研究に注目した先行研究がある。例えば、環境を大学院名に含む大学院でも、異なる分野を教えていること(内山, 2008)や、環境学の性質の分析(西川, 2005)や環境学の組成を明らかにした(鋤田, 2010)研究である。本研究では、研究総合大学である北海道大学の大学院修士課程を対象に、『客観的に「環境を教えている科目」を同定し、その分野を特定する手法の開発』及び『北海道大学において「環境」がどのように教えられているのか、その現状を明らかにする』ことの 2 つを目的とする。授業内容で分類すると難しいため(野澤, 2005)、科目名・講義題目もしくはキーワードに「環境」を含んでいる科目(以後「環境に関する科目」)に注目した。教育情報システム(ELMS)にシラバスが登録されている科目(2015 年度の(専門職大学院含む)17 大学院が開講している 3006 件)より 369 件が抽出された。それらに対して、(a)科目の基準の不整合、(b)ELMS の制約、および(c)本研究の目的に沿った選択などからクオリティーコントロールを行い、240 科目が得られた。それらに対して授業内容等を確認した。科目を開講している上位 3 大学院は、環境科学院 68 科目、工学院 48 科目、農学院 26 科目であった。

責任教員の研究分野を科目の学問分野とみなすことができる。科学研究費助成金データベースを利用して、研究代表者となっている最新の研究課題(2015 年度時点)の細目名と、科研費の「系・分野・分科・細目」表を照合し、責任教員の研究分野を科研費 14 分野に分類した。責任教員 162 名(北海道大学教員 2064 名の 8%に相当)の上位 3 研究分野は、工学 25.9%、農学 17.3%、環境学 9.9%となっていた。授業内容を見ても、責任教員のみで担当している科目の学問分野は、責任教員の研究分野とほぼ一致していることが確認された。学問分野を横断するような授業内容をもつ科目では、複数教員が担当すること(オムニバス形式授業)も分かった。大学院と学問分野との関係では、環境科学院は 8 分野に分類される一方、工学院や農学院は工学や農学分野に集中していた。

内山(2008)では、理学・農学・工学・社会科学・その他に対して単純に○を付ける/付けない形で分類していたが、本研究では、240 科目を 14 分野に機械的に分類し、各学問分野がどこの大学院で教えているかを示すことが出来た。例えば、内山(2008)で環境科学院に丸がついていなかった工学は工学院で、社会科学は文学研究科や公共政策大学院などで開講していることが示された。また、環境科学院の所属教員の研究分野は、環境起学専攻 7 分野、基盤 3 専攻 1 ないし 2 分野に集中し、南川(2008)が示した環境科学院改組と関係していることが示された。

本研究では、「環境に関する科目」がどのような学問分野(および大学院)で教えられているかを示すことが出来た。これは、他の学際的な内容についても、主観的な判断を含まずに分類することが出来る手法である。また、クオリティーコントロールでは、科目の定義やシラバス、教育情報システムの取り扱いの現状や問題点を明らかにすることが出来た。